

1

市民の負担にならない公立大学へ

福知山公立大学の初年度決算書を見ると、市から赤字補填として約3億981万円の運営費交付金が支出されています。

この中には、国から学生1人当たり212,000円の地方交付税が福知山市に入っていますが、この単価が年々下がり続けています。

このままだと、もし800名の定員を満たしても赤字は解消されず、税金で補填し続けなければならず、市民の負担となってしまいます。

大学生が急速に減る中で、全国の大学や都会の大学のキャンパスライフよりも、福知山公立大学に来たいという魅力を作らなければ学生は来なくなるでしょう。

将来市民の負担とならぬよう、交付税単価の高い学部への変更も見据えて、魅力があり競争に勝てる大学を0から考える時ではないでしょうか。

収支の状況(経常経費)		第1期中期計画(6年間)						第2期中期計画(6年間)							
収入	支出	単位：百万円						単位：百万円						累計	累計
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39		
1.授業料(576千円)	89	136	188	236	322	369	1,340	415	461	461	461	461	461	2,720	
2.入学金(282千円)	48	34	34	56	56	56	284	56	56	56	56	56	56	336	
3.検定料(17千円)	7	7	8	9	9	9	49	9	9	9	9	9	9	54	
4.地方交付税(220千円)★	34	52	72	90	123	140	511	158	176	176	176	176	176	1,038	
5.被扶助金(国・府・市等)	3	5	5	5	8	8	34	10	15	20	25	30	35	135	
6.その他(寄付金・施設収入等)	7	7	7	8	8	8	45	12	12	13	16	21	21	95	
収入合計	188	241	314	404	526	590	2,263	660	729	735	743	753	758	4,378	
1.人件費	311	322	331	343	347	367	2,021	395	396	406	417	435	444	2,493	
2.教育研究費用	97	100	104	106	113	118	638	122	126	127	127	128	129	759	
3.管理経費	56	57	58	59	60	60	349	61	62	62	62	63	63	373	
支出合計	464	479	493	508	519	545	3,008	578	584	595	606	626	636	3,625	
経常経費の収支差額 (赤字額を運営費交付金として交付)	▲276	▲238	▲179	▲104	7	45	▲745	82	145	140	137	127	122	753	
想定される臨時経費・政策経費															
大規模改修費(平年換算)★	10	10	10	15	15	15	75	30	30	30	30	30	30	180	
雇用・人手助成金★	4	7	9	10	15	16	61	17	18	18	18	18	18	107	
福知山市運営費交付金及び臨時政策経費 (表内★の合計 収支黒字後は★2除く)	324	307	270	219	153	171	1,444	205	224	224	224	224	224	1,325	

作成から2年で合わなくなつた見通しの甘い運営シミュレーション

※平成27年9月作成

2

市職員の仕事を見直し無駄の削減を

経常収支比率が急速に悪化している中で、支出の16.1%を占める市職員の入件費約66億円についても分けて考えることは出来ない時期にきているのではないでしょうか。

しかしその一方で、近年は多様な住民ニーズに応える為に業務量や事業数、計画策定数などは増えています。

行政改革で職員が減る中で、今まで通りの事をしていくは負担が増え、市民にしっかりと向き合えなくなるのではないかでしょうか。

一般会計支出の割合(千円)		
扶助費	8,579,504	20.9%
人件費	6,611,377	16.1%
公債費	5,350,919	13.0%
物件費	5,121,022	12.5%
投資的経費	5,099,353	12.4%
繰出金	4,680,491	11.4%
補助費等	4,438,255	10.8%
積立金	768,905	1.9%
維持補修費	433,347	1.0%
貸付金・出資金	5,936	0.0%
	41,089,109	

その業務は本当に必要なのか、今の手法に無駄はないのか、職員の配置は適正なのかなど見直しを行い、仕事量を減らしながら市民にしっかりと向き合えるように業務改善をしていく必要があるのではないかでしょうか。

厳しい財政状況の福知山市だからこそ、根本的な見直しをすすめていくべきと考えます。

3

中心市街地活性化活性化 住民が望むスーパーへの対応を



スーパー・マーケット跡地

私は広小路商店街で生まれ育ちました。

子供の頃は、賑やかで名実ともに福知山市の中心地でした。

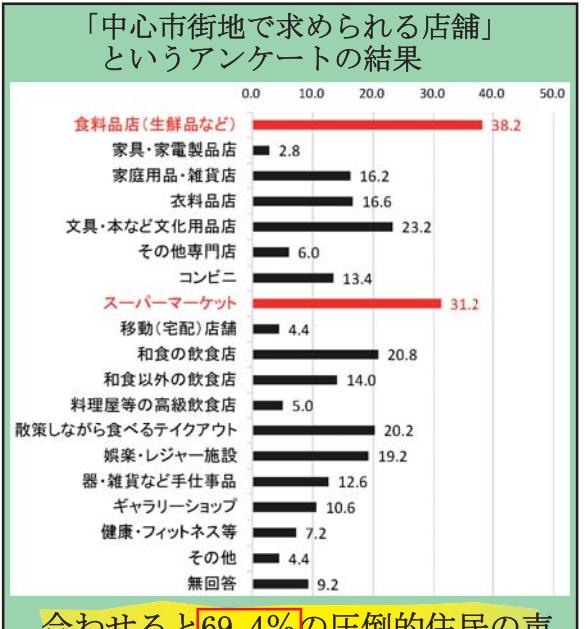
しかし、車社会の発展やインターネット社会の進展といった大きな時代の流れとともに必然的に衰退していくように感じています。

そんな中心市街地をもう一度活性化しようと福知山市中心市街地活性化基本計画を策定し、関連事業を合わせ何億円もの税金を投入してきましたが、成果が上がるどころか、年々賑わいが無くなっている現状です。

中心市街地活性化は、全国的にも成功例のほとんどない、難しい事業ではありますが、福知山市においても、本来は「店舗の売上額」を目指すべきですが、そうなつていな事や「周辺住民の生鮮食品スーパーが欲しい」というニーズに沿っていない事が問題ではないかと思います。

市の事業といえども私たちの大切な限られた税金で余裕はありません。

ニーズから需要、需要から売上げ、売上げから賑わい、賑わいからニーズという経営的視点をもって、最小限で効率的な税金の使い方をよく考えていただきたいと思います。



人口減少や増税、財政縮小など、今後より厳しさを増していく中で、次世代に負担を強いことなく、夢と希望が持てる福知山を引き継いでいくためには、今を生きる世代が政治を他人任せにせず、責任を持って担っていく必要があります。

共に責任ある未来にしていきましょう！